



# 芦安中学校だより

第 19 号

校長 大石 浩雄

2026. 3. 19

3月も半ばが過ぎ、ここ芦安でも本格的な春の気配を感じます。3年生が卒業して、1・2年生6名だけの学校は少し寂しい感じがしますが、新年度に向けた準備を進めています。4月にスタートした学校だよりもこちらが最終号となります。

## ☆冬季オリンピックを見て

少し前に冬季オリンピックが終わりました。いくつかの競技を見て、選手やチームスタッフ、家族等がつくるドラマに感動し、エネルギーをもらったような気持ちになりました。特に、互いにメダルを争うライバルである選手たちが、競技以外の場面では互いを尊敬・尊重し合う姿は印象的でした。

勝敗や順位がつく状況では、他者を落とすことで上に行こうとする人間や結果が出なかったときに審判や相手が悪いと他者の責任にする人間を目にすることがあります。勝ちたいと思う気持ちや負けて悔しいと思う気持ちはわかるのですが、自分に矢印を向けられる人と他人に矢印を向ける人との間に大きな差を感じてしまいます。



オリンピックという場、スポーツという世界に限らず同じようなことが世の中にはたくさんあるように思います。今回のオリンピックは、たとえ利害が相反する立場であっても、互いに敬意を持ち尊重し合える関係性を築いていくことの大切さを再確認する機会になりました。これからの社会は多様性を認め、他者と協働できることが大切であると言われます。その基本となるのが互いに敬意を持ち尊重し合える関係性だと思えます。私たちの周りでもこうした関係性が当たり前となるようにしていきたいと思いました。

## ☆1年間の学習の総まとめ

3月3日(火)に1・2年生が今年度最後の到達度テストを受けました。1年間の学習について振り返り、身につけている部分とそうでない部分を確認することが目的です。問題に向かう生徒の姿は真剣、自分の力を出し切

ろうとする様子がかがえました。

テストの結果は人それぞれですが、何よりも大切なことは自分の課題に正面から向き合うことです。「どうせ自分はできないから」とあきらめることも「このくらいでいいや」と妥協して努力を怠ることも、結局自分の可能性を消していくことになってしまいうでしょう。中学生という若い年代だからこそ、自分で自分の限界を簡単に決めず、がむしゃらに挑戦する姿勢を大切にさせたい、また、そうした挑戦する生徒を支える教職員でありたいと思っています。



## ☆三年を送る会の様子と卒業式に向けて

3月9日(月)の6校時に3年生を送る会がありました。前号でも取り上げましたが、この会に向けて1・2年生が頑張ってきました。3年生が中学校生活を振り返りながら楽しめるようにとレク(思い出クイズ)を考え、お世話になった先生方のメッセージビデオを用意し、プレゼントの製作も手作りのレジン細工、寄せ書きと自分たちの気持ちが伝わるようにと取り組んでいました。

当日は、生徒会長・副会長が進行しながらとても和やかな雰囲気でも進んでいきました。全校生徒9名全員がそろい、お互いが顔を見ながら時には軽口を聞きながら思い出を振り返り、気持ちを伝える機会になったように思います。生徒たちの良い面がたくさん見られたことに感謝したいと思います。

1・2年生は卒業式に向けての取組もがんばっていました。もちろん3年生も集大成としての姿を在校生に見てもらえるように頑張っていました。卒業生も在校生も互いに自分の頑張る姿を見せようとするのが、学校をよい方向へと進めていく大きな力になると思います。



## ☆第19回卒業証書授与式を終えて

3月11日(水)に令和7年度の卒業式が行われました。今年度の卒業生は3名。ひとりひとりが在校生6名と来賓、保護者の前で成長した姿を見せることができました。

卒業証書の授与では、呼名に対してひとりひとりがはっきりと返事をして堂々と受け取ることができました。校長としてもそれぞれの生徒の表情をしっかりと見ながら手渡せたことをうれしく思いました。



本校には「巣立ちの時」と名付けられた生徒による送辞と答辞の部分があります。そこでは、代表による言葉と合唱が交わされました。互いの姿を思い浮かべながら考えた言葉、朝の時間や音楽の授業を利用しながら練習を積み重ねた合唱、少ない人数であるがためにひとりひとりの役割や責任が大きく、苦勞をすることもあったと思います。そうしたことを乗り越え、見せてくれた生徒

たちの表情や振る舞いに、生徒同士のつながりと1年間の成長を感じることができた瞬間でした。式



に参加していただいた来賓の方々からも、生徒全員が主役となれた卒業式でよかったというようなお褒めの言葉もいただきました。時間にすれば1時間ほどの式ではありますが、卒業生、在校生双方にとって大きな学びの機会であったように思います。

## ☆令和8年度に向けて

芦安中学校では現在のところ新入生がおりません。それに伴い、保護者のみなさまには教員の配置定数等に変更があること、新年度の体制がどのようになるのかまだ流動的なところがあるといったことをお伝えしてきました。3月26日の離任式で配布する離任する先生についての通知の裏面に、このことに触れる内容を掲載する予定です。ご確認をお願いいたします。

令和8年度は全校生徒が新2年生1名と新3年生5名の合計6名となる予定です。このため、入学式がない、修学旅行を2・3年生合同で実施するなど、これまでと異なる形で教育活動が行われることが多くなると思います。保護者のみなさまには、これまで以上のご理解とご協力をお願いすることがあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

## ☆子供の成長のために必要なこと

教員の仕事の大きな柱として学習指導と生徒指導があります。その内の生徒指導については、悪いことをした時に叱ったり、きまりを守らせたりすることと思われがちですが、それはほんの一部でしかありません。実際には「児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のこと」と定義されています。定義の「児童生徒」の部分を「自分の子供」と置き換えるとそのまま子育てにも当てはまりそうです。

生徒指導を進めていく上では「言い続けること(伝え続けること)」が大切です。思春期の子供の中には、我々の言葉が簡単には届かない子もいます。一度でダメなら二度三度言う、何度言ってもだめなら言い方や伝え方を変えてみる、伝わりそうな人の力を借りる。粘り強く言い続ける、伝え続けることで少しでも子供の中で変化が起きることや精神的な成長を目指すのです。言わないということは「あきらめた、見放した」につながる可能性があるのです。しかし、言い過ぎ、強引すぎると逆効果になります。それを避けるため、子供の表情や行動を観察して心情を理解しようとしています。あきらめない、見放さないという姿勢と子どもの主体性の尊重を、バランスを見ながら進めることが生徒指導では求められます。

「社会の中で自分らしく生きてほしい」「幸せになってほしい」という思いは保護者も教員も同じだと思います。ただ、保護者や教員が持っている「自分らしく、幸せ」といった価値観や生徒の心情の解釈にはそれぞれ違いがあります。だからこそ同じ思いを持っている仲間として普段から連絡を密にして、価値観や生徒の心情を共有しながら「言い続ける・伝え続けること」ができるとよいと思います。



### 最後に

保護者や地域の方に、生徒の様子や学校教育が目指していること等を伝えられるようにと、できるだけ数多くの話題を取り上げてきたつもりです。ただ、学校から保護者や地域へ一方的に伝える意図はなく、このたよりを讀んだり生徒の様子を見たりして感じたことを保護者や地域の中で話題にさせていただき、みんなで生徒のことを考えることができるようになればよいという思いでした。拙い文章でどのくらい伝わったのかわかりませんが、2年間お付き合いいただきありがとうございました。

校長 大石 浩雄